ますます、いよし。

伊予市のブランドロゴが誕生しました

市民によるワークショップの活動を経て、伊予市をPRするブランドロゴマークが決定しました。

ロゴタイプ

「伊予市」のロゴタイプには緩やかなウェーブをあしらい、市民の優しさを表現するとともに、さまざまな考え方をおおらかに抱擁する海の波と、伊予市に爽やかに吹き込む新しい風を表現しています。

シンボルカラー

特産品であるかんきつ、伊予灘に沈む美しい夕日、地域に残された山吹御前の伝説などからイメージされる「オレンジ」をシンボルカラーとし、ロゴマークの基本色とします。

使用する際の背景色や用途に応じて「グリーン」と「ブルー」のバリエーションを追加するほか、シンボルマークのモチーフに代えて「山、海、人(まち、花)」の画像を用いることもできます。

シンボルマーク

デザインコンセプトは「伊予市の一体感ある発展」です。

「伊予」のローマ字表記「ＩＹＯ」を同サイズの円で構成。かんきつを想像させる小さな丸が２つ、３つ、４つと集まり増えていくことで、伊予、中山、双海の３つの地域が一体となって成長する伊予市を表しました。

それぞれの文字の中には、恵み深い山を表す「果実、木もれ日、ホタル」、豊かな海を表す「青海波(せいがいは)」、市の花「菜の花」のイメージをあしらっています。

このうちホタルは市内各地に残された源平物語の歴史ロマンを、伝統文様である青海波は先人の培ってきた伝統文化を、そして、菜の花は小さな花が力を合わせて美しい花畑をつくる市民の気質を表現しています。

新鋭的で斬新なロゴマークを採用することで、新たな一歩を踏み出す意思を示すとともに、これまでに培った伝統、文化も大切にする伊予市のイメージをシンボリックに表現しています。

▲第３回は、グループに分かれて「伊予市のよいところ」を出し合った（H26／8／21）

▲第１回ワークショップ「問題を解決するデザインとは」に市民28人が参加（H26／7／24）

▲ワークショップ参加者へ、お礼の言葉を述べる武智市長

▲ワークショップのファシリテーター、デザイナーの山内敏功先生（右）と、コピーライターの大野千佳先生

▲第７回は成果報告。武智市長および報道機関に対し、ロゴマークやキャッチコピー案などを発表（H26／11／20）

▲第５回は、参加者による投票で、提示されたデザイン案３案が１案に絞られた（H26／10／9）

各種キャッチコピー

シンボルマーク、シンボルワードとあわせて、観光、物産、食など用途に応じて、各種キャッチコピーを使用します。

総　合	やま、なみ、咲くまち
食	美しまち、いよし。
観　光	山恋、海恋、町恋。
物　産	いよし、山よし、海よし。

シンボルワード

ますます、いよし。

市名の「いよし」を、いよいよ、ますますといった繁栄を表す古語の「弥し」と重ねて「ますます、いよし。」と表現。「いよし」という市名を印象付けるとともに、これからますます良くなるという、伊予市の希望や未来を表現しています。

小さな丸が集まって形をつくっていくシンボルマークとも呼応し、各地域の魅力を互いに高め合う一体感ある伊予市のイメージと、これから何かが生まれる、という未来を感じさせます。

伊予市のシンボルワードとして、シンボルマークと組み合わせて使用します。